

2018年3月		
筆者	所属	千葉県農林総合研究センター 特産果樹研究室
	職名及び氏名	主席研究員 押田 正義
題名	パッションフルーツの収穫時期を早める整枝法	
備考	【図説明】真横垣根整枝の模式図 注) ×は摘心を示す	

パッションフルーツは甘酸っぱい食味と独特な香りが特徴の南米原産の果樹で、南房総地域では観光・直売向けに栽培が増加しています。加温施設での栽培が基本ですが、無加温施設や露地で1年生作物として栽培することも可能です。この作型では収穫のピークが8月下旬以降になるため、観光客の多い夏休み前半(7月~8月上旬)の需要には間に合いません。そこで、収穫時期を早める新しい整枝法(真横垣根整枝)を開発しました。

真横垣根整枝では、棚や架線は従来の吊り下げ型整枝と同じものを用います。主幹は棚の高さ(約180cm)で摘心し、結果枝を左右に各7本程度水平に伸ばして着果させます(図)。結果枝の基部側から4果まで着果させたら、その先4節は摘蕾・摘果し、5節目以降に再度着果させます。結果枝は栽植密度にかかわらず、隣接樹に達したところで摘心します。従来の吊り下げ型整枝では主枝を育成してから結果枝を伸ばすのに対し、真横垣根整枝では主幹から直接結果枝を伸ばすため、主幹が不要になった分その育成期間が短縮され、収穫時期を早めることができます。

無加温施設で4月上旬に苗木を定植した場合、7月~8月上旬の収量は吊り下げ型整枝では総収量の4分の1以下にとどまるのに対し、真横垣根整枝では総収量の2分の1以上となり、収穫時期が早まります。総収量や食味は整枝法により差がありません。一方、露地栽培でも真横垣根整枝は吊り下げ型整枝より収穫時期が早まりますが、総収量はやや少なくなります。また、露地栽培で8月上旬までに収穫した果実は、整枝法にかかわらず酸含量が高くなります。この場合、20~25℃で3日間程度追熟することで酸含量を低くすることができます。

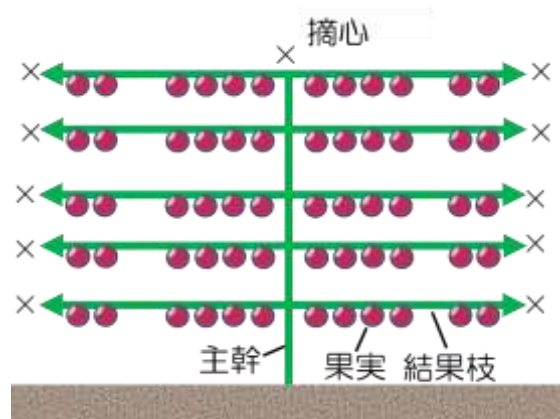


図 真横垣根整枝の模式図

注) ×は摘心を示す